

# まつお新聞

発行所 飯田市松尾公民館  
編集人 松尾公民館広報委員会  
印刷：龍共印刷(株)



公民館公演「三まいのお礼」

詳細は2面に

## 大雨や台風に備えて

### 松尾地区学習会

松尾公民館総務企画委員会主催による第1回松尾地区学習会が8月7日松尾公民館で行われた。

初めて行った学習会は、南信州連合気象アドバイザーの土井雅彦さん(明区)を講師に迎えた。「大雨や台風に備えて」のタイトルで松尾地区を中心とした、飯田下伊那地方の地形や気候の関係、伊勢湾台風や36災害、ま

た、昨年の西日本豪雨等、災害が発生した時の気象データや被災状況などが報告された。

土井さんが気象庁に就職した47年前と比べ現在は、気象技術や情報・通信技術などが格段に向上したことで、携帯電話やスマートフォンなどで気象情報を瞬時に入手出来るようになり、万が一に備えてどういった対

応をするべきか早期に判断出来るようになったことなども報告された。

興味深い話として「一般的に標高の高い地方は最高気温、最低気温とも標高の低い地域よりも低いと思われませんが、冬に限っては標高の高い飯田市街よりも標高の低い松尾地区の最低気温が低いといったデータがある。

それは、松尾は天竜川に面していて、霜が降りて日照時間が短い期間があるからです。しかし、それは干し柿を作るのに最も適した気候でもあります」といった話



危険度分布とは

もあった。参加者は30人ほどであったが皆関心を持って聴き入っていた。

## 打ち上げに大歓声が沸き起こる

### 松尾小6年生がモデルロケット作り

松尾小学校6年生4クラス、112人が7月22日、火薬エンジンを燃料に空高く飛ぶ「モデルロケット作り」と打ち上げを体験した。

松尾地区まちづくり委員会青少年健全育成会が主催した出張科学教室で、児童たちは自作のロケットが高く飛ぶと声を上げて喜んだ。講師は松尾サイエンススタッフで飯田市教育委員会の「おもしろ科学工房」の三浦宏子さんをはじめ、松尾サイエンスのスタッフなど3団体から24人が指導に当たった。

1時間ほどで完成させるのと校庭に準備された発射台に並べ、「5、4、3、2、1、0」のカウントダウンに合わせて一人ずつが発射ボタンを押した。この日はあいにくの雨だったが、ロケットが白煙を上げ空高く打ち上がった。あがると児童らから大歓声が沸き起こった。

- 公民館の主な行事予定 (10月～12月)
- 【10月】
    - 13日(日)地区市民運動会
    - 22日(火)健康ウォーキング教室
    - 27日(日)松尾バレーボール連盟 後期大会
  - 【11月】
    - 31日(木)深秋の探勝会
  - 【12月】
    - 9日(土)松尾サイエンススクール
    - 16日(土)マジシャンゆっきーのマジックショー&トークショー
    - 17日(日)飯田市女性バレーボール大会
    - 1日(日)第17回 松尾踊ってみよう会
    - 7日(土)松尾サイエンススクール



写真提供：南信州新聞

## 人物とほみち

(111)



新井区 今牧まりあさん

8月に行われた全国高校総体(インターハイ)に、競泳女子50歳自由形に出場した今牧まりあさん(飯田高校3年)。7年ぶりに長野県高校記録を塗り替え、2位となった。生後10カ月の頃、母親とベビースイミングに行くようになったのがきっかけで、それからずっとスイミングに通っている。中学3年の時に、初めての全国大会を経験し、レベルの高さにおののき、それからの練

習に更に熱が入った。高校1年で参加した国体では、3位の入賞が自信にもなった。そして、今夏のインターハイ、ジュニアオリンピック、国体と、数々の大会で活躍をしている。ここまで頑張れたのは、支えてくれた家族、コーチのおかげと話す。

夢はさらに上の大会に出場すること。来年は東京オリンピックがある。松尾から、オリンピック選手が出るのも夢ではないかもしれない。



8月19日付け信濃毎日新聞より

## 松風

日本に、そして地元に戻ってくるとほっとする。今回も無事に帰って来たことができた。今年に入り仕事でアメリカ・ヨーロッパと数カ国を訪問した。何度訪問しても現地で和食を食べたいとはあまり思わず、その国のものを味わいたいとの思いが強い。しかし日本に戻り、どの店に入って何を食べても素晴らしい美味い。特に和食はとて繊細、味は複雑だがしつかり一つにまとまり、素材も活かされていると感じる。日本料理人の感覚・味覚・技は群を抜いていると感じる。▼わずかな時間をぬって観光をし、世界遺産を訪れる機会もある。中でも教会は多くの国にあり、豪華・優雅・荘厳そして圧倒される。焼失数日前のノートルダム大聖堂にも行ったが、時を感じることが出来る。▼鳩ヶ嶺八幡宮には、例年正月とお祭りの年2回しか行かないが、今回すぐに行ってみた。改めて見ると非常に感慨深い。木の造り、色合い、形、地元民で作るしめ縄など、どれをとっても逸品である。▼美味しいものを食べ、風呂に入り、布団に入った瞬間に、しみじみ日本人で良かったと幸せを感じる。

松尾の人口

男子	6,198人
女子	6,813人
計	13,011人
世帯数	5,143世帯
8月末現在	



# みる 演じる ささえる いいだ人形劇フェスタ 2019



## 清水区

### みどり座、ごさる参上!

8月4日清水コミュニティ消防センターで緑ヶ丘

参加体験型人形劇  
8月2日に松尾公民館で、「とうふねこ座」「三まのお札」と影絵劇団「打ち出の小づち」の参加体験型影絵劇『一寸法師』が上演され120人が来場した。『三まのお札』は、昔々

中学校の人形劇部「みどり座」による『桃太郎』と「人形劇団ごさる」による『しようじょう寺のためきばやし』の公演があり、80人が大いに楽しんだ。「みどり座」は2年生、3年生の7人で3月から準備を進めて活動してきた。「ごさる」は14年間活動しているとのこと。  
人形劇終了後には、劇人とスタッフとの交流会、意見交換も行われた。



## 公民館公演

おもしろいよ! 僕の手が写ってる

でもらうことに。「今日お母さんに褒められた人は手を挙げて」などの問いかけに、「はい、はい」と元気な声で子供たちは一斉に手を挙げた。その中の何人かがクジを引き、好きな顔の部分を選ぶ。顔を作っていくと、眉毛が大きいなどのおもしろい顔が出来上がり大盛り上がり。話の続きは、和尚が術比べをしてやまんばを退治して終わり。  
次の『一寸法師』は、人形劇の途中で、「やってみたい人」と呼びかけられて一人ずつ舞台上上がり影絵を笑顔で演じた。上演後のふれあいでは舞台上がり指導を受けながら友だちや親子で影絵を楽しんだ。両劇団とも来場者が参加する内容で、終了後でも人形のそばに残る人が多かった。

## 毛賀区

### 人形たちの動きに魅了された

8月3日毛賀区民会館に、京都の劇団「パペットなもんや」、緑ヶ丘中学校人形劇部「みどり座」を迎え、集まった約50人が人形たちの愉快な動きに拍手を送った。最初に「みどり座」が昔話の『桃太郎』を中学生の柔軟



## 新井区

### 『おせんべ』『日光仮面』を上演

いいだ人形劇フェスタ2019の新井公演が8月3日コミュニティ消防センターで「人形劇のジャビジャビ」、「手風琴」の2団体を招き開催され、86人の観客が訪れた。公演が始まると、それぞれ



な発想で現代風にコミカルにアレンジした演目を披露し、観客はストーリーの結末に引き込まれていった。次に「パペットなもんや」の女性2人が指人形や野菜の人形を使って3つの短い話を軽快なリズムに乗せて踊ったり、人形たちの台詞のやりとりで笑いを誘ったりしながら「さすがはプロ」と頷かせる人形劇を見せてくれた。  
公演後「パペットなもんや」の団員が「飯田の人たちは人形劇の見方を知っているから私たちも演技し易いです」と語っていた。交流会では中学生がプロの団員に質問をし、プロの2人からの適切なアドバイスを受けるなどして楽しいひと時を過ごした。

## 上溝区

わしていた子供たちは、真剣な表情で人形の動きに目を向け、笑い声や歓声で会場が盛り上がった。  
兵庫県から訪れた「人形劇のジャビジャビ」の代表者である坂本さんは、「いいだ人形劇フェスタは一度は訪れてみたい場所。見て人に盛り上げられプロになった気がする」と話し、愛知県から訪れた「手風琴」の代表者である酒井さんは、今回で飯田市には連続で38回訪れ人形劇フェスタに参加している。「町ぐるみで盛り上がっていることに魅力を感じる」と話していた。  
人形劇が終わり、観客の森本さん親子に話を聴くと「数日前からこの日を楽しみにしていました。スタンブ



音楽と人形劇を一人で上演  
上溝集会所では、8月3日、「グレゴの音楽一座」が登場。サンフランシスコ出身のグレゴさんが一人で自作楽器を演奏しながら人形

## 出張サイエンススクール

今年の夏も各地区で出張サイエンスが開催された。7月14日は上溝集会所で小学生を対象に開かれた。参加者は33人。テーマは「紙タワーを作ろう」「わっか取りペン落とし」。紙タワーは、チラシと糊だけで円筒を作り、積み上げて高さを競う。優勝した大人チームは天井近くまで積み上げていた。



どんどん積み上げるよ

7月27日は城集会所で、児童60人が参加した。この日は9チームに分かれ紙タワーの高さを競った。1位になったチームは185センチ、2位は179センチ。皆楽しんでいった。  
7月28日は清水コミュニティ消防センターで児童76人と大人



うまく落とせるかな



チラシの円筒100本の上に

を操った。「かわいいパペット」「めずらしい楽器」「へんてこなおしゃべり」の3本立てという触れ込みだが、最初から最後まで1時間切れ目の無い上演を60人の観客が楽しんだ。ステージを降り、奇妙な音の出る楽器を手に練り歩くグレゴさん。子供の体から音が出ているようなパフォーマンスを交え、観客に語りかける。グレゴさんの背負うカバンから時々、テナガザルの人形が顔を出し、子供たちは大騒ぎ。折り畳み傘を改造したクモ、それ自体が弦楽器になっている人形などを演じてまるで踊るように動く木製人形の操作を教えていた。

19人が、代田公民館では児童75人と大人16人がチームによる対抗戦で、紙タワーの高さを競い楽しんだ。「1年生から6年生まで一緒に出来る内容でよかった」などの感想が聞かれた。

8月4日は水城コミュニティ消防センターにおいて開催され、小学生22人が参加し「紙を使った科学」を学んだ。紙タワーの高さが2メートルになったことで、薄い紙も形を変えることで強くなることを体験した。



城 区

城区サマーフェスティバル

7月14日城区サマーフェスティバルが城集会所で開催された。当日天候が心配されたが、屋外の準備も進み集会所前では、小中学校のPTAが用意したポップコーン、水ヨーヨー、かき氷、ジュースなどが。また、新集会所横で

は、壮年会が焼き鳥とフランクフルトを、昭和会が焼きそばをタオルで汗を拭いながら焼いていた。これらすべてが無料で振舞われた。5時より新集会所2階大広間で、芸能祭が行われた。今年7組と6団体による踊りや歌、ゲーム、ハンドベルなどが披露された。31番組と41番組のそれぞれの『パブリカ』では子供たちによる歌と踊りに会場の区民は、笑顔で応援していた。



パブリカを踊る

『騒げココ☆ナツボーイズ!』の2団体の出し物は毎年城区民が楽しみにしており、今年も会場全体が盛り上がり、時間も忘れるほどだった。

代 田 区

朝学、がんばったよ!

恒例の寺子屋が、小学校の夏休み初日の7月25日から8月11日までの18日間にわたり、32人の寺子を迎えて開催された。代田地区の寺子屋は、明治以降継や教育が全て学校任せになっていて、これを憂慮した松澤秀明さんが、「松尾の子は松尾で育てたい」

との思いを、同級生や当時の区長・役員と共有し、上久堅で行われていた寺子屋をモデルに8年前に発足させたもの。寺子たちは、ラジオ体操終了後の6時45分に代田公民館に集まり7時30分までの45分間、それぞれ持参した学校の宿題に取り組んだ。また、師匠による講話が毎日行われ、8月6日・9日には戦争の話が、その他の日には各師匠の様々な得意分野を生かした体験談が語られた。この他にも、朝食会や星見の会、工作教室と、師匠



足し算を一緒に考える5年生と1年生

による温かな心意気に溢れたイベントが行われ、充実のうちに最終日を迎えた。6年間通った6年生は「宿題も早く終わって、楽しかった」夏休みの良い思い出になった」と話していた。

清 水 区

清水、夏の始まり



清水区民(子供52人、大人115人)が参加し、7月13日に金山様にて津島様の祇園祭が行われた。朝8時半より当番の15番組8人が祭壇などを手作りし、風祭りの幣束も立てた。当日は雨のため、午後4時半に区長他執行部と当番組合が金山様で参拝をした。区民は午後5時に清水コミュニティ消防センターで参拝をした。その後実年会はジュースを振舞い、壮年会はフランクフルトを振舞った。また、くじ引きをして子供も大人も楽しんだ。

竹村清海区長は「毎年多くの区民が参加出来るように新しい企画を考えている」と話した。

毛 賀 区

思わず本気になった

梅雨明けが待ち遠しい7月21日、松尾マレットゴルフ場において区民マレットゴルフ大会が開催された。前日までの雨でコースはやわらかくなっていて、曇天のためさほど暑さを感じることなく、区民約30人が毛賀マレットゴルフ同好会メンバーの指導を受けて27ホー

ルのプレーを楽しんだ。スゴ腕の人やマレットゴルフ初心者など、3人ずつがひとつのチームになって初夏の天竜川の河川敷に、ボールを叩く軽快な音と笑い声を響かせた。山あり谷ありのコースのため息をつく人、闘志を燃やす人、匙を投げる人さまざまだったが、好プレーに拍手を送り、珍プレーに爆笑しながら区民相互の親睦が図られ、梅雨の合間のひと時に、さわやかなスポーツの汗を流した。



中村四郎分館長より労いの言葉と賞品が優勝者からブルービーメーカーまで参加者全員に贈られた。

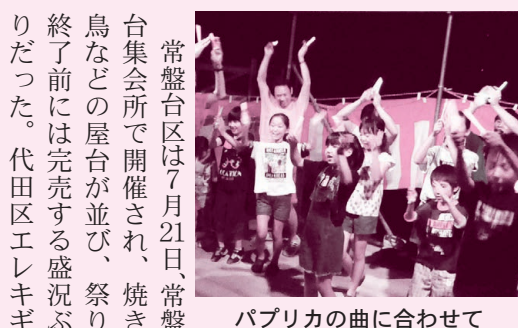
八 幡 町 区

マレットゴルフで親睦を深める



7月21日八幡山マレットゴルフ場で、分館主催のマレットゴルフ大会が行われた。15ホールパー60のコースを参加者27人が3人1組となり各ホールをスタートし、競技を楽しんだ。マレットゴルフは去年のこの大会以来だという人や初心者も上級者もプレーを通じて、親睦を深め合った。自然の地形を活かした八幡山マレットゴルフ場のコースに悪戦苦闘しながらも歓声が上がっていた。分館長の尾曾勝明さんは「雨の心配のある中で開催することが出来て本当に良かった。景品も沢山用意しているの皆さん頑張ってください」と話していた。

2019 夏の日のスケッチ



パブリカの曲に合わせて

この夏、各区で納涼大会が行われた。久井区は7月20日、会場を例年の久井公園から集会所前に変え、通行止めにした道路にテントを張り、夜店を開店。全戸配布のビール無料引換券を持った区民で長い行列ができた。仮設舞台では芸能保存会のお囃子披露、じゃんけん大会などが行われた。中でも消防団員による『パブリカ』の踊りは一番の盛り上がりを見せた。

この夏、各区で納涼大会が行われた。久井区は7月20日、会場を例年の久井公園から集会所前に変え、通行止めにした道路にテントを張り、夜店を開店。全戸配布のビール無料引換券を持った区民で長い行列ができた。仮設舞台では芸能保存会のお囃子披露、じゃんけん大会などが行われた。中でも消防団員による『パブリカ』の踊りは一番の盛り上がりを見せた。



ブルーシートの下で

水城区はセンター2階での催しとなったが花火以外は予定通り行われ、夢の宝くじの抽選会では1等賞の抽選が最高潮に盛り上がった。寺所区は盆踊りと花火は中止となったもののお囃子やビンゴ大会等はセンター内で開催。時々雨が降るなかで地区内のあすなろ農園で栽培されたスイカを使い小学生のスイカ割りも行われた。盆の15日開催の区では帰省して久々に再会した同年代同志が近況報告をしながら夏の夜の一時を楽しんだ。



つれたよー



松流囃子を聴きながら



# 市政懇談会

松尾まちづくり委員会主催の松尾地区市政懇談会が7月22日松尾公民館で行われた。懇談は2部構成で進められ、まず牧野市長から市政経営の方向や方針の説明があり、2部では松尾地区基本構想の5つの分科会に分かれ、意見交換が行われた。



整備され生まれ変わったグラウンド

## 天竜グラウンド運用開始

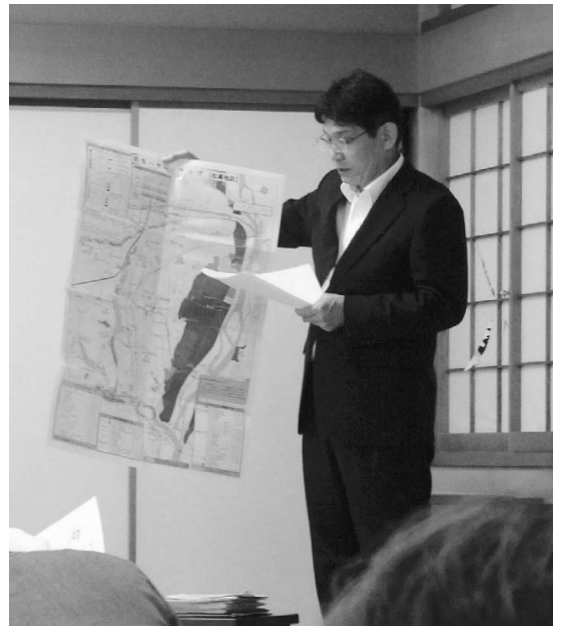
松尾まちづくり委員会は松尾地区の基本構想の改定について進めており、飯田総合運動場や飯田勤労者体育センター、ほつ湯アップルなどのスポーツ健康関連施設の充実を求め、昨年の9月21日に要望書を牧野飯田市長に提出した。「スポーツパークI

IDA構想」もその取り組みの一つ。天竜グラウンドは長野県食品厚生年金基金が所有していたが、基金が解散し飯田市に買い上げられることとなった。天竜グラウンドは、飯田市としては産業用地として考えていたが「スポーツパークIDA構想」で松尾まちづくり委員会が貸し出しを要望し6月14日付で暫定使用の許可が出た。利用できる団体は、松尾まちづくり委員会と過去に天竜グラウンド

用の申し込みは2カ月前から受け付ける。まちづくり委員会は6月30日に整備作業を行い、7月1日より貸出を開始。座る所がないので、緑ヶ丘中学校に16個のベンチ製作を依頼し夏休みに作り、休みに明けに設置した。天竜グラウンドやマレットゴルフ場なども含めて、多くの施設を面的・有機的に連携させることで、松尾地区を中心に飯田市のスポーツ拠点整備を推進させたいと考えている。

## 住環境、自然、ゴミ、安心、安全、防犯、災害 第3分科会

第3分科会では、最初に北澤飯田市危機管理室長から災害時の警戒レベルの設定と指示、ハザードマップの改定について説明があった。このハザードマップは、千年に一度の洪水を想定し作成しており今年度中の完成を目指しているとのこと。続いての意見交換では、「天竜川の堤防の本格的補強工事には1戸当たり5億円



ハザードマップの説明をする北澤危機管理室長

## 本を読めば元気に長生きできる!? 第4分科会

第4分科会では、「一人と人の関わりのある心身ともに健康なまちづくり」をテーマに話し合いが行われた。中でも健康寿命の延伸について、行政のサポートとともに個人の健康意識向上が必要であり、このための働きかけをどのように行っていくかについてこれまでの調査結果が発表された。



必要であるが、これを基本構想に盛り込み国への要望に結び付けていってほしい」「新規転入者への組合への加入依頼推進を要望」「新入者へのゴミ集積所の周知と外国人や地区外の人に対する対応の強化を」といった意見があった。

## 地震総合防災訓練 初の試み！避難所運営ゲーム(HUGゲーム)

9月1日、松尾地区自主防災会地震総合訓練が各区で行われ、8292人が参加した。

本部訓練においては、松尾地区自主防災会や消防団松尾分団、日赤奉仕団松尾分団など約60人(うち中学生6人)が続々と公民館に向かい、参加したもののから災害対策本部の設置準備を行った。救護訓練や炊き出し訓練は例年通り。避難所開設・運営訓練においては、



救護訓練をする日赤奉仕団

長野県危機管理防災課危機管理担当の五十嵐萬寿男さんを招き、避難所開設、避難所運営ゲーム(HUGゲーム)研修を行った。HUGゲームとは、避難者の年齢、性別、国籍やそれぞ

れが抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲーム。約6人9グループに分かれて進めていくが、受付場所ひとつとっても、昇降口か体育館入り口かで意見が分かれた。犬を連れて避難者や避難者であるが元気な人、熱のある人への対応などさまざまな課題を



講師を務めた田中利治さん

## スポーツ推進委員研修会 インストラクターからコーディネーターへ

飯田・下伊那のスポーツ推進委員と公民館館長、主事を対象に7月20日、りんご庁舎でスポーツ推進委員研修会が開かれた。例年、それぞれが年数回の研修会を行っているが、今年が初めて飯伊合同で開催。講師を

飯田市の体育指導委員任命以来10期19年の経歴を持ち、飯田市スポーツ推進委員協議会名誉会長である代田区の中利治さんが務めた。田中さんはスポーツ新時代を迎えるのスポーツ推進委員の任務と役割について



どのようになればうまく運営できるのかを皆で考えた。今回、参加募集のチラシを見て参加した緑ヶ丘中学校の古瀬はづきさんは、「ゲームでは、いろんな意見があつて混乱した。自分の考えを心の中では思ったが、口に出すことが出来なかった。皆さん地域のことをすごく考えていてすごいなあと思つた。今日は防災について考えるいい機会となつた」と話した。

強かったのに対し「スポーツ」は自主的・自発的活動であり、スポーツ推進委員は実技指導をするのではなく連絡調整役であるべきだとした。また、自ら作成した全国と県下各市町村のスポーツ推進委員数の人口比女性比の表を示し、飯田市は女性の比率がかなり低い現状を危ぶんだ。次回の研修会で田中さんは、来年初の実施が決まっている中学校部活動改革の課題についてしっかりと話す予定だという。